

受診券QRコード収録項目

項番	区分	項目名称	データ長	データ仕様	最大バイト	備考	考え方
1	-	自動転記対応確認文字、バージョン記号	固定長	半角文字“kenshin”+発行年度 西暦下2桁	9	読み取り対象が「受診券である」と、バージョン(有効年度)を読み取り機で判断するための情報。	自動転記対応確認文字を「kenshin」としたが、任意の記号または文字で代替可能(参考:被保険者証は「」)
2	受診者情報	受診者のカナ氏名		半角カナ20桁	20		被保険者証QRより文字数を拡張(14→20文字)被保険者証との突合のため半角カナカナとしているが、健診データファイル標準様式では全角カナカナとなることから、データファイルへの格納時に全角へ変換する必要がある。
3		性別		半角数字1桁	1	1:男、2:女	被保険者証QRと同様の仕様。
4		生年月日		半角数字7桁	7	YYMMDD(元号/年/月/日) G=1:明治、2:大正、3:昭和、4:平成	被保険者証QRと同様の仕様 被保険者証との突合のため和暦としているが、健診データファイル標準様式では西暦8桁となることから、データファイルへの格納時に西暦へ変換する必要がある。
5	保険者情報	保険者番号		半角数字8桁	8		
6	受診券整理番号	受診券整理番号		半角数字11桁	11	YY1999999(西暦下2桁/種別1桁/個人番号8桁) 3桁目は、1で固定	「年度+種別+個人番号8桁」より、数字11桁。
7		交付年月日		半角数字8桁	8	YYMMDD(西暦年/月/日)	
8		有効期限		半角数字8桁	8	YYMMDD(西暦年/月/日)	
9		健診内容区分		半角数字1桁	1	1:特定健診のみ、2:その他健診項目あり	
10		事業主健診の有無		半角数字1桁	1	1:労働者としての事業主健診の実施も含んでいる 2:含んでいない(被扶養者として受診)	健診を労働者として受診するのか、被扶養者として受診するのかを区別し、生活機能評価との同時実施時に重複項目の費用を差し引くか否かを判別
11		特定健診(基本部分)の負担区分		半角数字1桁	1	1:受診者は負担なし、2:受診者は定額負担、3:受診者は定率負担、4:保険者は定額負担	特定健診の「基本的な健診の項目」部分への使用を想定
12		特定健診(基本部分)の負担内容		半角数字6桁	6	「特定健診基本部分の負担区分」=2~4のときに使用。 =2:4のとき、割合 =3のとき、割合 =4のとき、割合 例:負担額が1万円の場合、「010000」を収録。 例:負担割合が33.02%の場合、「033020」を収録。 *1:受診者は負担なし、の場合は「000000」を収録。	
13		特定健診(詳細部分)の負担区分		半角数字1桁	1	1:受診者は負担なし、2:受診者は定額負担、3:受診者は定率負担、4:保険者は定額負担	特定健診の「詳細な健診の項目」部分(医師の判断により実施する項目)への使用を想定
14		特定健診(詳細部分)の負担内容		半角数字6桁	6	「医師の判断による追加項目の負担区分」=2~4のときに使用。 =2:4のとき、割合 =3のとき、割合 =4のとき、割合 例:負担額が1万円の場合、「010000」を収録。 例:負担割合が3割の場合、「030000」を収録。 *1:受診者は負担なし、の場合は「000000」を収録。	
15		その他(追加項目)の負担区分		半角数字1桁	1	1:受診者は負担なし、2:受診者は定額負担、3:受診者は定率負担、4:保険者は定額負担	特定健診以外に、保険者が任意で追加する項目への使用を想定
16		その他(追加項目)の負担内容(負担率・負担額)		半角数字6桁	6	「その他(追加項目)の負担区分」=2もしくは3のときに使用。 =2のとき、割合 =3のとき、割合 例:負担額が1万円の場合、「010000」を収録。 例:負担割合が8.67%の場合、「008670」を収録。 *1:受診者は負担なし、の場合は「000000」を収録。	
17		その他(人間ドック)の負担区分		半角数字1桁	1	1:受診者は負担なし、2:受診者は定額負担、3:受診者は定率負担、4:保険者は定額負担、5:受診者は保険者負担上限額以下の場合定率負担、6:受診者は保険者負担上限額以下の場合定額負担	人間ドック(特定健診含む)への使用を想定
18		その他(人間ドック)の負担内容(負担率・負担額)		半角数字6桁	6	「その他(人間ドック)の負担区分」=2から6のときに使用。 =2:4のとき、割合 =3:5のとき、割合 例:負担額が1万円の場合、「010000」を収録。 例:負担割合が8.67%の場合、「008670」を収録。 *1:受診者は負担なし、の場合は「000000」を収録。	
19		その他(人間ドック)の負担内容(保険者負担上限額)		半角数字6桁	6	「その他(人間ドック)の負担区分」=4もしくは5のときに使用(金額を収録)。 例:負担額が1万円の場合、「010000」を収録。	「その他(人間ドック)の負担区分」=5の時に、保険者負担上限額はこの欄に収録し、上限額以下の場合の受診者負担率はNo18に収録。
20		契約とりまとめ機関区分1		半角数字1桁	1	1:国保ベース、2:国保ベース+契約とりまとめ機関、3:国保ベース+契約とりまとめ機関+個別契約、4:契約とりまとめ機関、5:契約とりまとめ機関+個別契約、6:個別契約のみ	個別契約では受診券を必ずしも必要としないが、代行機関を通じて結果と決済を行う場合は受診券を発行。
21		契約とりまとめ機関区分(全衛連における受診可否)		半角数字1桁	1	1:契約とりまとめ機関のうち、全衛連にて利用が可能であれば「1」、不可なら「0」とする。	集合契約を主に利用する被用者保険が、現状でも協約等の締結や、一括委託等を行う等により既存の全衛連ネットワークとして利用できるとりまとめ機関として、多くの保険者が利用している機関グループについて領域を設定。これにより全国の多くの機関がカバーされることから、コード化により文字入力等を回避。
22		代行機関番号(全衛連の場合)		半角英数8桁	8	結果データの送付先として、支払基金にて付番された各機関の番号を格納。No21が「0」の場合は空欄で可	
23		契約とりまとめ機関区分(結核予防会における受診可否)		半角数字1桁	1	1:契約とりまとめ機関のうち、結核予防会にて利用が可能であれば「1」、不可なら「0」とする。	
24		代行機関番号(結核予防会の場合)		半角英数8桁	8	結果データの送付先として、支払基金にて付番された各機関の番号を格納。No23が「0」の場合は空欄で可	
25		契約とりまとめ機関区分(人間ドック学会における受診可否)		半角数字1桁	1	1:契約とりまとめ機関のうち、人間ドック学会にて利用が可能であれば「1」、不可なら「0」とする。	とりまとめ機関が代行機関を兼ねるケースも想定されることから、それぞれのとりまとめ機関別の送付先を設定(支払基金に入る場合はそれぞれ別の欄に支払基金の番号を入れておく)。
26		代行機関番号(人間ドック学会の場合)		半角英数8桁	8	結果データの送付先として、支払基金にて付番された各機関の番号を格納。No25が「0」の場合は空欄で可	項目・費用等により選択されたとりまとめ機関により、送付先が決定し、データにその機関番号を格納
27		契約とりまとめ機関区分(予防医学事業中央会における受診可否)		半角数字1桁	1	1:契約とりまとめ機関のうち、予防医学事業中央会にて利用が可能であれば「1」、不可なら「0」とする。	国保ベースのみの場合は送付先代行機関は支払基金(支払基金の番号が送付先欄に入る)、個別契約が優先される場合は送付先は保険者(保険者番号が送付先欄に入る)
28		代行機関番号(予防医学事業中央会の場合)		半角英数8桁	8	結果データの送付先として、支払基金にて付番された各機関の番号を格納。No27が「0」の場合は空欄で可	
29		契約とりまとめ機関区分(日本総合健診医学会における受診可否)		半角数字1桁	1	1:契約とりまとめ機関のうち、日本総合健診医学会にて利用が可能であれば「1」、不可なら「0」とする。	
30		代行機関番号(日本総合健診医学会の場合)		半角英数8桁	8	結果データの送付先として、支払基金にて付番された各機関の番号を格納。No29が「0」の場合は空欄で可	
31		契約とりまとめ機関区分(全日本病院協会における受診可否)		半角数字1桁	1	1:契約とりまとめ機関のうち、全日本病院協会にて利用が可能であれば「1」、不可なら「0」とする。	
32		代行機関番号(全日本病院協会の場合)		半角英数8桁	8	結果データの送付先として、支払基金にて付番された各機関の番号を格納。No31が「0」の場合は空欄で可	
33		契約とりまとめ機関区分(東京都総合組合保健施設振興協会における受診可否)		半角数字1桁	1	1:契約とりまとめ機関のうち、東京都総合組合保健施設振興協会にて利用が可能であれば「1」、不可なら「0」とする。	
34		代行機関番号(東京都総合組合保健施設振興協会の場合)		半角英数8桁	8	結果データの送付先として、支払基金にて付番された各機関の番号を格納。No33が「0」の場合は空欄で可	
35		契約とりまとめ機関区分(その他における受診可否)		半角数字1桁	1	1:契約とりまとめ機関のうち、その他(全衛連、結核予防会、人間ドック学会、予防医学事業中央会、日本総合健診医学会、全日本病院協会、東京都総合組合保健施設振興協会以外)にて利用が可能であれば「1」、不可なら「0」とする。	上記以外で、複数の契約とりまとめ機関との集合契約を利用する場合においても、利用する代行機関の数があまりに多くなると保険者の事務負担軽減につながらないことから、代行機関はできる限り集約・一本化を図るが保険者としての基本的な考え方となるため、機関番号は1箇所のみとしている。
36		代行機関番号(その他の場合)		半角英数8桁	8	結果データの送付先として、支払基金にて付番された各機関の番号を格納。No35が「0」の場合は空欄で可	個別契約が混入する場合、この欄を使用
37	保険者情報	(区切り文字)	固定長	半角英数1桁	1	「」を収録。	被保険者証QRと同様の仕様。
38		保険者名称	可変長	漢字	40		「特定健診データの電子的交換のためのファイル仕様(案)」の「特定健診機関名称」と同様にエリア設定。
39		(区切り文字)	固定長	半角英数1桁	1	「」を収録。	被保険者証QRと同様の仕様。
40		保険者所在地	可変長	漢字	80		「特定健診データの電子的交換のためのファイル仕様(案)」の「特定健診機関所在地」と同様にエリア設定。
41		(区切り文字)	固定長	半角英数1桁	1	「」を収録。	被保険者証QRと同様の仕様。
42		保険者電話番号	可変長	半角英数	15		「特定健診データの電子的交換のためのファイル仕様(案)」の「特定健診機関電話番号」と同様にエリア設定。
43	受診券情報	(区切り文字)	固定長	半角英数1桁	1	「」を収録。	被保険者証QRと同様の仕様。
44		健診内容その他の内容	可変長	漢字	80	「健診内容区分」=「2:その他あり」のときに使用、その他欄に記載する追加の健診項目の内容を収録。 例:「人間ドック」「婦人科健診」など。	被保険者証QRと同様の仕様。
45		(区切り文字)	固定長	半角英数1桁	1	「」を収録。	被保険者証QRと同様の仕様。
46		契約とりまとめ機関区分(除外県)	可変長	半角英数	49	除外(あるいは限定)する都道府県番号を収録する。受診可能な県を列記する場合、冒頭に「+」を収録する。受診対象外となる県を列記する場合、冒頭に「-」を収録する。例:東京都(番号「13」)のみ被扶養者がいる場合には、「+13」を収録する。例:東京都(番号「13」)、神奈川県(番号「14」)に被扶養者が一人もいない場合には、「-1314」を収録する。	当然ながら、+と-が混在するとはなく、いずれかのみとなる。
47		(区切り文字)	固定長	半角英数1桁	1	「」を収録。	被保険者証QRと同様の仕様。
48		契約とりまとめ機関名	可変長	漢字	40	契約とりまとめ機関名称を収録する。	「特定健診データの電子的交換のためのファイル仕様(案)」の「特定健診機関名称」と同様にエリア設定(全角20文字)。

*代行機関名は、入力領域がないと等からコード化せず
*被保険者証の記号・番号は、利用券の表記より削除

合計(最大) 491 バイト
(うち、固定長 179(バイト)
(うち、固定長(区切り文字) 6(バイト)
(うち、可変長 304(バイト))

利用券QRコード収録項目

項番	区分	項目名称	データ長	データ仕様	最大バイト	備考	考え方
1	-	自動転記対応確認文字、バージョン記号	固定長	半角文字"shidou"+発行年度 西暦下2桁	8	読み取り対象が「利用券である」と、バージョン(有効年度)を読み取り機で判断するための情報。	自動転記対応確認文字を「shidou」としたが、任意の記号または文字で代替可能(参考:被保険者証は「」)。
2	利用者情報	利用者のカナ氏名	固定長	半角カナ20桁	20		被保険者証QRより文字数を拡張(14→20文字)。 被保険者証との突合のため半角カタカナとしているが、健診データファイル標準様式では全角カタカナとなることから、データファイルへの格納時に全角へ変換する必要がある。
3		性別		半角数字1桁	1	1:男、2:女	被保険者証QRと同様の仕様。
4		生年月日		半角数字7桁	7	GYMMDD(元号/年/月/日) G=1:明治、2:大正、3:昭和、4:平成	被保険者証QRと同様の仕様。 被保険者証との突合のため和暦としているが、健診データファイル標準様式では西暦8桁となることから、データファイルへの格納時に西暦へ変換する必要がある。
5	保険者情報	保険者番号		半角数字8桁	8		
6	利用券情報	利用券整理番号	半角数字11桁	11	YY2999999(西暦下2桁/種別1桁/個人番号8桁) 2:特定保健指導(積極的支援) 3:特定保健指導(動機付け支援) 3桁目は、2もしくは3。		「年度+種別+個人番号8桁」より、数字11桁。
7		特定健康診査受診券整理番号	半角数字11桁	11	YY1999999(西暦下2桁/種別1桁/個人番号8桁) 1:特定健康診査 3桁目は、1で固定。		「年度+種別+個人番号8桁」より、数字11桁。
8		交付年月日	半角数字8桁	8	YYYYMMDD(西暦年/月/日)		
9		有効期限	半角数字8桁	8	YYYYMMDD(西暦年/月/日)		
10		特定保健指導区分	半角数字1桁	1	1:動機付け支援、2:積極的支援		
11		負担区分	半角数字1桁	1	1:利用者は負担なし、2:利用者は定額負担、3:利用者は定率負担、4:保険者は定額負担、5:利用者は保険者負担上限額以下の場合定率負担、6:受診者は保険者負担上限額以下の場合定額負担		
12		負担内容(負担率・負担額)	半角数字6桁	6	「その他の負担区分」=2から6の時に使用。 =2・4・6のとき、額 =3・5のとき、割合 を収録。 例:負担額が1万円の場合、「010000」を収録。 例:負担割合が8.67%の場合、「008670」を収録。 例:「1:利用者は負担なし」の場合は「000000」を収録。		
13		負担内容(保険者負担上限額)	半角数字6桁	6	「その他の負担区分」=4もしくは5の時に使用(金額を収録)。 例:負担額が1万円の場合、「010000」を収録。		「その他(人間ドック)の負担区分」=5の時に、保険者負担上限額はこの欄に収録し、上限額以下の場合の受診者負担率はNo12に収録。
14		契約とりまとめ機関区分1	半角数字1桁	1	1:国保ベース、2:国保ベース+契約とりまとめ機関、3:国保ベース+契約とりまとめ機関+個別契約、4:契約とりまとめ機関、5:契約とりまとめ機関+個別契約、6:個別契約のみ		個別契約では利用券を必ずしも必要としないが、代行機関を通じて結果と決済を行う場合は利用券を発券。
15		契約とりまとめ機関区分(全衛連における受診可否)	半角数字1桁	1	1:契約とりまとめ機関のうち、全衛連にて利用が可能であれば「1」、不可なら「0」とする。		集合契約を主に利用する被用者保険が、現状でも協約等の締結や、一括委託等を行う等により既存の全国ネットワークとして利用できるとりまとめ機関として、多くの保険者が利用している機関グループについて領域を設定。
16		代行機関番号(全衛連の場合)	半角英数8桁	8	結果データの送付先として、支払基金にて付番された各機関の番号を格納。No15が「0」の場合は空欄で可。		これにより全国の多くの機関がカバーされることから、コード化により文字入力等を回避。
17		契約とりまとめ機関区分(結核予防会における受診可否)	半角数字1桁	1	1:契約とりまとめ機関のうち、結核予防会にて利用が可能であれば「1」、不可なら「0」とする。		
18		代行機関番号(結核予防会の場合)	半角英数8桁	8	結果データの送付先として、支払基金にて付番された各機関の番号を格納。No17が「0」の場合は空欄で可。		
19		契約とりまとめ機関区分(人間ドック学会における受診可否)	半角数字1桁	1	1:契約とりまとめ機関のうち、人間ドック学会にて利用が可能であれば「1」、不可なら「0」とする。		
20		代行機関番号(人間ドック学会の場合)	半角英数8桁	8	結果データの送付先として、支払基金にて付番された各機関の番号を格納。No19が「0」の場合は空欄で可。		
21		契約とりまとめ機関区分(予防医学事業中央会における受診可否)	半角数字1桁	1	1:契約とりまとめ機関のうち、予防医学事業中央会にて利用が可能であれば「1」、不可なら「0」とする。		
22		代行機関番号(予防医学事業中央会の場合)	半角英数8桁	8	結果データの送付先として、支払基金にて付番された各機関の番号を格納。No21が「0」の場合は空欄で可。		
23		契約とりまとめ機関区分(日本総合健診医学学会における受診可否)	半角数字1桁	1	1:契約とりまとめ機関のうち、日本総合健診医学学会にて利用が可能であれば「1」、不可なら「0」とする。		
24		代行機関番号(日本総合健診医学学会の場合)	半角英数8桁	8	結果データの送付先として、支払基金にて付番された各機関の番号を格納。No23が「0」の場合は空欄で可。		
25		契約とりまとめ機関区分(全日本病院協会における受診可否)	半角数字1桁	1	1:契約とりまとめ機関のうち、全日本病院協会にて利用が可能であれば「1」、不可なら「0」とする。		
26		代行機関番号(全日本病院協会の場合)	半角英数8桁	8	結果データの送付先として、支払基金にて付番された各機関の番号を格納。No25が「0」の場合は空欄で可。		
27		契約とりまとめ機関区分(東京都総合組合保健施設振興協会における受診可否)	半角数字1桁	1	1:契約とりまとめ機関のうち、東京都総合組合保健施設振興協会にて利用が可能であれば「1」、不可なら「0」とする。		
28		代行機関番号(東京都総合組合保健施設振興協会の場合)	半角英数8桁	8	結果データの送付先として、支払基金にて付番された各機関の番号を格納。No27が「0」の場合は空欄で可。		
29		契約とりまとめ機関区分(その他における受診可否)	半角数字1桁	1	1:契約とりまとめ機関のうち、その他(全衛連、結核予防会、人間ドック学会、予防医学事業中央会、日本総合健診医学学会、全日本病院協会、東京都総合組合保健施設振興協会以外)にて利用が可能であれば「1」、不可なら「0」とする。		
30		代行機関番号(その他の場合)	半角英数8桁	8	結果データの送付先として、支払基金にて付番された各機関の番号を格納。No29が「0」の場合は空欄で可。		
-	保険者情報	(区切り文字)	固定長	半角英数1桁	1	「」を収録。	被保険者証QRと同様の仕様。
31		保険者名称	可変長	漢字	40		「特定健診データの電子的交換のためのファイル仕様(案)」の「特定健診機関名称」と同様にエリア設定。
-		(区切り文字)	固定長	半角英数1桁	1	「」を収録。	被保険者証QRと同様の仕様。
32		保険者所在地	可変長	漢字	80		「特定健診データの電子的交換のためのファイル仕様(案)」の「特定健診機関所在地」と同様にエリア設定。
-		(区切り文字)	固定長	半角英数1桁	1	「」を収録。	被保険者証QRと同様の仕様。
33		保険者電話番号	可変長	半角英数	15		「特定健診データの電子的交換のためのファイル仕様(案)」の「特定健診機関電話番号」と同様にエリア設定。
-	利用券情報	(区切り文字)	固定長	半角英数1桁	1	「」を収録。	被保険者証QRと同様の仕様。
34		契約とりまとめ機関区分(除外県)	可変長	半角英数	49	除外(あるいは限定)する都道府県番号を収録する。 利用可能な県を列記する場合、冒頭に「+」を収録する。 利用対象外となる県を列記する場合、冒頭に「-」を収録する。 例:東京都(番号「13」)のみ被扶養者がいる場合には、「+13」を収録する。 例:東京都(番号「13」)に被扶養者が一人もいない場合には、「-13」を収録する。 例:東京都(番号「13」)、神奈川県(番号「14」)に被扶養者が一人もいない場合には、「-1314」を収録する。	当然ながら、「+」が混在することはない、いずれかのみとなる。
-		(区切り文字)	固定長	半角英数1桁	1	「」を収録。	被保険者証QRと同様の仕様。
35		契約とりまとめ機関名	可変長	漢字	40	契約とりまとめ機関名称を収録する。	「特定健診データの電子的交換のためのファイル仕様(案)」の「特定健診機関名称」と同様にエリア設定(全角20文字)。

「代行機関名」は、入力領域がないことからコード化せず
「被保険者証の記号・番号」は、利用券の表記より削除

合計(最大) 398 バイト
(うち、固定長 167 バイト)
(うち、固定長(区切文字) 5 バイト)
(うち、可変長 224 バイト)